

ラジオトーク・リマインド ① シアトルと有島武郎

ミッチェル・ラング

「土香るラジオ文芸館」から一部抜粋してお届けします。今回はミッチェルさんです（2018年8月放送）

—はい、みなさん。今月の「この人に聞く」は、この方です。

Mi みなさん、こんにちは。ミッチェル・ラングと申します。アメリカから来ました。ニセコ町の国際交流員として、役場の二階で働いています。

—ミッチェルさん、アメリカのどちらからですか？

Mi シアトルです。

—西海岸ですね。日本に近いですね。

Mi そう、お隣の州です（笑）

—ミッチェルさんがシアトル出身ということ、今日の話題はシアトルに関係があります。

「シアトルといえば、有島武郎！」（笑）そんな連想で何が出てくるかが、今日の話題です。

—有島武郎というのは、シアトルにいた頃はご存知なかった？

Mi 知りませんでした。ニセコ

に来て初めて知りました。挨拶回りでいろんな所を回ったとき、三番目に行ったのが有島記念館でした。そこで知りました。

—その有島武郎は1903年にアメリカに留学しますが、横浜から船に乗って、最初に着くのがシアトル。そこで三泊四日滞在して、その後大陸横断鉄道で東海岸フィラデルフィアのハヴァフォード大学まで行きます。

武郎はシアトル市街のいろんな様子を見学して日記に書いてるので、その頃のシアトルと比べて現在のシアトルはどうなのか、ということについて、ミッチェルさんにお聞きしたいと思います。

武郎が行った1903年頃って、シアトルの人口は17万人くらいでした。人口がどんどん増えていた時期だったようですね。日本人もかなり住んでいて、二千四、五百人くらいいるって日記に書いています。全人口の1.5%くらいだから、ニセコ町の外国人の割合の半分くらいです。

彼が宿泊した日本人が経営していたジャクソンホテルは、ジャクソン通りにあると日記にあり

ますが、今でもこの通りの名前はあるんですか？

Mi はい、ジャクソン・ストリートは今でもあります。

—それから、ワシントン通りという名前も日記に出てきますが、今もありますか？

Mi あります。たぶんワシントン大学があるからではないかと思えます。

—そのワシントン通りにある「ちとせ」という名前の日本料理店に友人と行って食事しています。日本人がかなりシアトルに定着して、暮らしたり働いたりしていたことがわかりますね。そんな、日本に因んだ街角とか場所とか、他にありますか？

Mi 今のシアトルには、そんなに日本人がいる街というイメージはないと思います。でも、街の産業とか、古いビルとかを見ると、確かに昔の日本人の影響は見えますね。

—たとえば？

Mi たとえば、インターナショナル・デイストリクトというところがあって、その看板は、英語と日本語です。

—今でも？

Mi そうです。

—中国語ではなくて？

Mi ぼくも、最初見たときは中国語かなと思ったんです。漢字が書いてあったから。でも、カタカナも混じっていたのを見つけた。それで、あ、日本語なんだ、とわかりました。

—なるほどね。漢字だけだったら、中国語も韓国語も日本語もわからないよね。

Mi 国際地区に「Uwajimaya」というスーパーマーケットのチェーン店があって、カップラーメンとか味噌とか豆腐とかキムチとか、あ、これ韓国ですね（笑）並んでいます。

—それと、寿司はお店も多くななり流行っています。最近は一メンの店も出てきましたが、寿司の店はアメリカ全土に広がっていますけど、シアトルは特に多いと思います。

—日本だと回転寿司が多いけど、行ったことありますか？

Mi あります。シアトルではそういう機械化された店ではなく、ウェイターが来て、客は、「マンガロールね」とか言って注文するんです。

—今なら、日本でも回転寿司で「マンゴーロール」が出てきそうだよ（笑）シアトルは海があるというのも、寿司の店が行る背景になっているのかな。他に、日本に関連したエリアって、街の中にありますか？

Mi そうですね。私の出身地は、シアトルから20 kmほど離れたマカティオという小さなまちですが、ジャパニーズ・ゴージというところがあります。谷のような場所、そこに百年ほど前日本人がたくさん住んで木材産業などを支えたことに感謝して建てられたモニュメントと、その説明板も設置されています。

—そういう話を聞くと、やっぱりなあと思いますが、武郎がシアトルに行った頃はシアトルの人口がどんどん増えていた頃で、それは産業的な背景があったんでしょうね。どんな背景だったのですか？

Mi それは、たぶん木材産業が盛んになったからだと思います。シアトルは森の中の街ですから、樹木を使った航空機製造などが百年も前から盛んだったのです。それで、労働者もたくさん必要

で、アジアからの移民も多かったのだと思います。

—日本は、明治になって間もなく、農村や農業のあり方が大きく変わって、農村の余剰人口が自分の村から出ていく動きが増えました。北海道の開拓入植もそうだよ。同じように、アメリカ各地やブラジルなどへの移民が増えたんです。だから、シアトルに移住した日本人のほとんどは肉体労働者として働いたように、そのくたびれた様子を、武郎は日記の中で嘆いています。その移民や武郎のような留学生が使った日本郵船とシアトルのグレートノーザン鉄道が提携して、多くの物資や移民を運んだのがその頃です。『或る女』のモデル佐々城信子が日本郵船の「鎌倉丸」に乗ってアメリカを目指したのは、武郎の遊学の二年ほど前です。だから、『或る女』の舞台は鎌倉丸とシアトルだったのです。それで、「シアトルといえば有島武郎」ということになるんです（笑）

Mi いやー、最初、突然言われたんでびっくりしました（笑）

（※トークの途中まで掲載しました。）